

平成29年度みやぎ食の安全安心消費者モニター研修会 開催結果

| | | |
|---|-----|--|
| 1 | テーマ | 「遺伝子組換え食品について」 |
| 2 | 主催 | 宮城県 |
| 3 | 日時 | 平成29年11月28日（火）午後1時30分から3時30分まで |
| 4 | 場所 | みやぎ広報室 |
| 5 | 参加者 | みやぎ食の安全安心消費者モニター 計66名 |
| 6 | 内容 | (1) 講義「遺伝子組換え食品について」 講師：国立医薬品食品衛生研究所生化学部 部長 近藤 一成 氏 (2) 質疑応答 |

【主な質疑応答の内容】

- 質問1 除草剤耐性のある遺伝子組換え農作物と雑草が交雑して、除草剤耐性のある遺伝子をもった雑草が生まれたりしないのか。

【回答】 雑草も植物なので、除草剤耐性のある遺伝子組換え農作物と雑草が交雑して、除草剤耐性の遺伝子をもつ雑草が生まれる可能性はないとは言えない。除草剤耐性のある雑草が生まれるもうひとつのケースとして、雑草が除草剤に何度も晒されていくうちに、もともと変異を持った除草剤耐性のある遺伝子をもつほんの少しの雑草だけが生き残り、やがてそれが増えて主流になっていくということもあると思う。

- 質問2 家庭菜園等で育てる野菜等の種について、遺伝子を組換えられた種が日本は流通し、ホームセンター等で販売されたりしているのか。

【回答】 以前、遺伝子を組換えられたパパイアの苗がホームセンターで販売されていた事例はあるが、農林水産省でしっかり検査をしているので基本的にはそういうことはない。

- 質問3 大豆等遺伝子を組換えられた作物は、次の世代にもその遺伝子は受け継がれ、種子を撒けばまた同じ遺伝子をもった作物ができるのか。

【回答】 企業が作っている遺伝子組換えの種子は一回限りのものであり、実った種を撒いても、ものすごく弱いものができるか、強いものがごくわずかだけ生えてくることになる。そのため、遺伝子を組換えられた種を撒いて作物を育てる場合は、種を毎回開発企業から買わなければならない。

- 質問4 日本の企業で遺伝子組換え食品を作っているところはあるのか。また、実際に人が遺伝子を組換えられた食品を食べて安全性を確認しているのか。

【回答】 販売しているところはないが、開発しているところはある。人を実験の検体としては使えないので、人が遺伝子を組み換えられた食品を食べて安全性を確認することはしていない。ただ、動物実験はやっている。

- 質問5 動物実験の結果を、人への影響ということで結論づけているのか。また、動物実験で用いている動物は何か。

【回答】 動物実験の結果と、有害成分等のその植物が本来持っている成分、及び有害成分が新たに精製していないか、さらに人へのアレルギー性確認の分析結果をあわせて判断している。動物実験では、主にラットを用いた90日毒性実験を行っている。